

湘南学園だより

No.109

 発行 園り部
 学 学よ
 南 南だ
 湘 湘集
 学 学編

贈る言葉

学園長 藤岡貞彦

幼稚園を卒園する皆さん

小学校を卒業する皆さん

そして、高校を卒業する皆さん

保護者の皆様ともども、あらためてお祝いを申し上げます。ご卒業おめでとうございます。

とりわけ、6年間、12年間、あるいは幼稚園以来の14年間の長きにわたって、本学園に在籍された高校を卒業する皆さんに、一言、贈ることばをおとどけたい。皆さんにとって、日本を代表する人物をさぐりあて、その人のようになろう、なりたいとおもひ、憧れをもち、それをめあてに生きていく。そういう心をもて大学にすすみ、社会にでていつてもらいたい、という「事」である。

明治時代に、内村鑑三は、「代表的日本人」を書いて、5人の偉人を海外に紹介した。後発国であり、近代化におくれをとった日本を世界に紹介するために、日本を代表する人物を欧米に知らしめたのだ。

昨年夏、北京のオリンピックで、日本の若き選手たちが大活躍したことは、記憶

にあたらしい。ノーベル賞がかやく科学者の仕事も、日本人を代表する誇らしい歴史のひとつとなった。とりわけ、スポーツや文化・芸術の世界で、十代、二十代のヒーローたちが続出している。

いうまでもないことだが、彼らは早くから人生の目標を明確に定め、精進をおこたらぬ人たちだろう。しかし、志をきめる「立志」の機会はどこでもある。たとえば、今春卒業する高校3年生の皆さんが、今年もまた、6年間の特別教育活動のしめくりとして、「社会を支えている人々の生き方に学んで、その中から生涯を通じて学習することの意味を考え、広く社会に寄与できる人間性を培う」とのテーマのもと、社会の第一線で活やくされている人々の生き方にふれ、自分自身の生き方を見つめなおす機会をもったことは、すばらしいことだった。昨年の高3特活のテーマは、「法律」「国際」「マスコミ」

「医療」「芸術」の6分野。その各界の代表者と、卒業を前に出会い、深く人生と進路をさぐるキッカケを与えられた、といくつものアンケートはのべていた。

学園が卒業する皆さんに生涯のキャリアのみとり図づくりを助けることができたら、これにまさる学校の仕事はない。

皆さんの「代表的日本人」たる輝かしい前途に、心から期待している。

 2009年3月7日
 高等学校卒業生の皆さんへ

 湘南学園中学校高等学校
 学校長 古市好成

2009年3月、皆さんは第57回湘南学園高等学校卒業生となります。

想えば、皆さんがこの世に生を受けた頃に、東西冷戦が終わりグローバル化が進展する時代に突入りとなり、日本のバブル好景気も崩壊しました。この間急速なグローバル化にともない日本の社会も変化してきました。又、世界各地で戦争や紛争が続く、地球温暖化も着実に進行しました。日本では長期の不況から必ずしも脱出しないまま、過度な規制緩和による社会の格差問題が表象化されています。そして今、100年に一度といわれる経済危機が世界を席巻し、日本の社会経済を揺るがしています。

このような厳しい時代に幼少時代と青年期を経てきた皆さんにとって、「暗い時代」ともいえるこの風潮が重くのしかかっているかもしれません。しかし、これからどのような将来をきずいていくかが大切なのです。その指針となるものは何かを考え抜くべき青年後期を迎えるにあたって、一考していただくようあえて簡潔に付しておきたいと思ひます。

約1/4世紀の動向とその結果から世界が何を学ぶかです。グローバル化によりますます世界の社会発展の可能性が拡がりつつありますが、他方公正性、公平

性が問われてきました。グローバル化に伴う公正で公平な新しいシステムづくりが要請されていると思ひます。たしかに、未来は実に心細く、二歩を踏み出すのに大きな勇気が必要です。しかし二人ひとりの努力がむくわれる社会、男女共同参画を含めたデモクラティックな社会の実現が課題となつていると考えるべきです。

社会の変動にともない、抱える問題も大きく変わりつつあります。社会、文化、人間、自然、生命世界などにおける課題や問題意識、考え方や方法論を学ぶ、つまり教養を持つということが大切になります。そして深い専門的知識と学問的技量を身につけてほしいと思ひます。それが社会貢献へのベースとなります。又豊かなコミュニケーション力をつちかうことを忘れないで下さい。六ヶ年の特別教育活動の経験と知見が今後生きてくるはずですよ。

自分がどんな顔をしているかは鏡に映して初めて分かるものです。個人だけでなく、国でも同じです。自国を見つめ直す、しかも多面的に様々な考え方や方法論によつてです。その深い理解がアモクラティックな日本社会の実現に、そして国際社会への貢献につながると思ひます。困難に直面した時には、湘南学園の建学の精神「社会の進歩に貢献する有為ある人間」を想起して下さい。皆さんの営みはこれらがスタートです。心から今後の活躍に期待します。

ご卒業おめでとうございます。

満足度調査について

湘南学園中学校高等学校
 学校長 古市好文

本校は60年を超える伝統ある学校であり、またすでに20年前に中高貫教育に着手し、今日に至っております。しかし、今後新たな学校づくりの推進を想定するには、まず在校生、保護者、教職員の意識と満足度を客観的に把握することが必要と考えて、アンケートによる「満足度調査」を実施しました。この調査の目的は、学校評価をさらに高めるために取り組むべきことを明らかにすることです。

関係者の皆様のご協力を得て、昨年6月に実施しました。中学1年生を除いた中2から高3までの在校生、保護者を対象としました。在校生の約9割、保護者約8割の回答でした。ご協力に感謝致します。教職員にもアンケートを実施しました。アンケート調査結果の主な特徴ある事項について、以下の通り、ごく簡単に記しておきたいと思います。

一、まず、本校の校風やイメージについて、中学校や高等学校の保護者、在校生から高い評価を得ている。

「学校の雰囲気・校風」「学校行事の充実」「十分な授業時間の獲得」「自立心を養ってくれる」「協調性や思いやりを養ってくれる」「人間教育重視」「1人1人の個性を見出し出して伸ばしてくれる」などが満足度が高く、重要度も高い項目であった。二、主要改善項目としては、「生徒へのカウンセリングの充実」、中学生における「生徒間のトラブル」等があげられ、指導の在り方と充実した対応が求められているといえよう。これらについては教員の研修を進めており、又今年度「保健室」のスーパーヴァイザーによる評価検討も実施している。今後の改善につなげていくようにしたい。

二、次に本校の主要受験教科を中心とした各教科指導、中高二貫の系統的なカリキュラム、夏期講習の充実などに対する満足度が高い。中高貫教育の系統性への評価と支持がある。又、「明るい先生」「熱心な先生」「やるべきことをきちんとやっている先生」が多いという評価も得ている。

しかし、これらの満足度は多くの私立学校でもさらに高くなっており、今後授業内容の充実、指導の改善と工夫等が必定となる。要改善項目としては、「基幹教科の授業指導の充実」を含めて「塾に頼らなくても大学受験に対応できる力」「成績下位者

の面倒をよくみて」等があげられる。進路指導における要改善項目としては、在校生では、「将来学びたい学問をイメージするための情報提供」「将来、就きたい仕事などをイメージするための情報提供」「進路に関して明確な目標・夢を持つ」があげられ、キャリア教育に関わる点を欲している。

保護者では「期待通りの大学進学」があげられ、総じて学習進学に対する期待と要望が強い。このことに通じるものとして、「授業がわかりやすい」「授業でやる気を引き出すのが上手」「十分学力をつけてくれる」「先生を保護者が期待している。これについては教員でも満足度が低く、重要度が高い項目となっており、教員自身も課題としている。これらの課題を真摯に受けとめ、着実な取り組みによって学習指導・進路指導・生徒指導など学校教育力を高めていけるようにしていきたい。

以上

授業アンケートを実施して

湘南学園中学校高等学校
 教頭 山口吉英

本年度、「満足度調査」と並行して「授業と学習に関するアンケート」を

実施しました。満足度調査は、湘南学園の教育内容全般について、生徒・保護者・教職員全員からご意見を寄せてもらい、湘南学園の教育内容の検討を行い、今後の教育内容を模索し、全体としての教育力を高めることを目指したものです。一方、「授業アンケート」は日々受けているすべての教科・科目の授業に対して生徒諸君の評価をもらうもので、授業内容の改善をすすめ、「分かる授業」、「できる授業」を創り出す材料を得ることが目的です。これまでも年2回の公開授業の際に、ご参観頂いた保護者の皆様からアンケートにご協力頂き、それを教員全体で受け止め、授業改善に役立てさせて頂きました。また、年度末に、担当したクラスの生徒に授業アンケートをとっている教員もいましたが、全校で二斉の授業アンケートは湘南学園では初めてのことで

す。今年度は、7月と12月の2度にわたって実施し、その後の授業改善に活かしています。アンケートは、授業および担当の先生に関する設問と生徒自身の学習への取り組みに関する設問の2つに大きく分かれており、さらに、それぞれが8項目（「授業内容に興味を持てる」「説明が分かりやすい」「板書が読みやすい」「声が聞き取りやすい」「質問・疑問に十分答えてくれる」「先生の熱意が感じられる」「授業開始が遅れない」「総合的に見て満

足できる」)、4項目(「授業に積極的に取り組んでいる」「授業中にすべき作業(活動)をきちんとしている」「宿題提出物等をきちんと提出している」「授業内容が理解できている」)に分かれています。回答は満足度に応じて1~4の数値を記入してもらいましたが、それが集計されて、各設問に対する満足度がパーセントで示されます。また、自由記述欄もあり、生徒諸君からの具体的な要望も担当教員に伝えられました。

生徒諸君も総じて真剣に答えてくれましたが、生徒諸君の二日の学校生活の大部分を占めている授業が、楽しく分かりやすくそして満足度のいく内容であるようにすることは教員と学校の責務です。学校としても、各教員の研修活動を高く位置づけ、各種の研修活動や他校訪問などを大いに奨励しています。同時に、授業が教師と生徒諸君の相互努力の上に成り立つことを考えたとき、授業を受けている側(生徒諸君)にその授業の評価を表明してもらうことが、より客観的に授業を評価し改善することにつながっていきます。

来年度以降もこの「授業アンケート」は継続していきますが、教員だけでなく、生徒諸君も一体となって授業と学習の内容の改善に向かってくれることを切に願っています。

中高合唱コンクールを終えて

みんなで歌い上げた すべてのクラスに拍手

生徒会指導主任 緒方哲也

1月27日に行われた中高の合唱コンクールも、今回で19回目を迎えました。風邪やインフルエンザに悩まされたクラスもあったようですが、クラスがひとつになって創り上げたハーモニーを、今年も一日を通して鎌倉芸術館で聴くことができました。

今回中学では、みんなで最高の合唱を作ろうということで、テーマは「A」。高校では、合唱でつながったクラスのみながら、素敵な関係をいつまでも築いて行つて欲しいという願いを込めて、テーマは「絆」。今回の新たな取り組みとしては、中学の部では司会者を置く代わりに、クラスの代表が歌う前に、客席に向かって一言メッセージを披露するという形をとりました。このメッセージには、クラスの練習時の様子や、自分たちが歌う曲にはどんな思いを寄せたのかなど、それぞれのクラスの個性が現れて大変良かったと好評でした。また、高校の部では、回を追う毎に曲のレベルがアップして、今回は全体のほぼ半数を占める5クラスがアカペラに挑戦したのです。高校の部の最後には、皆さんお馴染みの「コスモス」をみんなで大合唱：「お

互いに肩を組んで楽しく歌うことができました」と、高校の生徒達も感想を述べてくれました。

毎回、本当に多くの保護者の皆様がこのコンクールに足を運んでいただいております。今年もホール内の狭い保護者席には大変迷惑をおかけしました。この合唱コンクールを通じて、平日頃のあまり見ることのできない(一)生徒諸君の一生懸命で、ひたむきな姿を見ることができたでしょうか？

これはコンクールですので、当然のことながら順位を付けなければなりません。そのために、当日の合唱にたどりつくまでには、それぞれのクラスでは、苦労したことやつらいこと、様々な「人間模様」が展開されました。しかし、この合唱コンクールの一番いいところは、そうした経過を経ながらも、一つの曲をみんなで歌い上げた時の一体感や達成感を、多くの人が共有することの大切さを学んでくれたことです。

終えたばかりの合唱コンクールではありますが、来年は、どんなドラマを見せてくれるのでしょうか。次回二十歳(はたち)を迎えるこの取り組みが今から楽しみです。そして、この合唱コンクールに参加したすべてのクラスに大きな拍手を贈りたいと思っています。

なお、今回の合唱コンクールの結果は次の通りとなりました。

- 高校の部
- 金賞 高2A組「森の狩人アレン」
- 銀賞 高1A組「きみ」
- 銅賞 高2C組「火の山の子守唄」
- 審査委員特別賞
- 高2E組「あい」

- 中学の部
- 中1金賞 A組「旅立ちの日に」
- 銀賞 E組「チェリー」
- 中2金賞 C組「コスモス」
- 銀賞 A組「語り合おう」
- 中3金賞 A組「走る川」
- 銀賞 E組「手紙」
- 審査委員特別賞
- 中1D組「空も飛べるはず」



児童会の日

「エコスクールギネス」 2008

小学校児童会担当

笠井・寺田

12月10日(水)、全校児童による児童会の日が行われました。毎年、執行委員によって、その内容は決定されます。今年は、執行委員会の公約に掲げた「スクールギネス大会」に挑戦することにしました。

どんなギネスに挑戦するか、考察していた時、「エコキャップ運動」ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう」を利用したギネスが出来ないか提案されました。話し合いの末、キャップの積み上げ「ゴミ処理場」・水中オセロ「たらい返し」・ドミノ積み上げ「ド・ミノ」・お箸の上にキャップを乗せて運ぶ「橋わたし」・一年生の画を当てる「ゴッホ」・風船投げ「風ーさん」の6種類の種目が生まれました。

当日を迎えるまで、学級委員会はルールを作り、広報委員会はキャップで文字を綴ったポスターを作りました。

当日は、児童会班リーダーを中



心に、1年生から6年生まで楽しく盛り上がりました。子ども達からは「最高。チームワークが深まった」「1位になって楽しかった。人気があつたので来年もやりたい」といった感想が寄せられました。ギネスの結果は、すぐに集計され、児童会班のリーダーには賞状とトロフィーが贈られました。

この全校から集められたキャップは、45リットル袋10袋分になりました。2月末、業者に渡り、湘南学園から世界の子どもたちにワクチンが届けられるでしょう。

「豆まき集会」



小学校集会担当

鈴木智洋

二月三日(火)、豆まき集会が行われました。節分の豆まきと言えば、邪気を払い無病息災を願うならわし。丁度このとき、学校では風邪やインフルエンザが流行し、学級閉鎖まで起きていましたので、豆まきが子どもたちを元気にしてくればと、祈るような気持ちでいたことを覚えています。

ところで、この豆まき集会。毎年、企画も運営も子どもたちの手で行われています。今年も集会委員会の子どもたちが頑張ってくれました。

集会委員会の子どもたちは、一学期に一度か二度のペースで全校レクリエーションを企画・運営しています。自分たちで考えたオリジナルゲームを楽しむときもあれば、昔から遊ばれているゲームを全校に向けて紹介するときもあります。いずれにしても、「楽しく安全に!」をモットーに、一生懸命活躍してくれるメンバーです。

節分とは、中国から伝わった行事で……



この日の集会は、「豆まきの起源」を伝える放送から始まりました。校内はしいんと静まって、厳かな雰囲気。きつと放送に耳を傾け、集中してくれていたのでしょうか。放送が終わると、鬼に扮した集会委員が各クラスをまわります。

「ぎゃー」「わーっ」
今度は一転しての大騒ぎ。廊下まで声が聞こえるほどの盛り上がりようでした。
「豆は痛かったけど、楽しそうであつた。」とは委員からの声。
来年も邪気を吹き飛ばすような、楽しい集会であつて欲しいと思います。

「GOOD MORNING!...GOOD-BYE!」

年少組担任 進藤 加央里



今年度から新たな試みとして、月に一回、園児と外国人講師が一緒に生活する日を設けました。幼稚園から外国人と触れ合うことで、外国人に壁を作らず接することが出来る人になってほしいと考えています。

外国人講師が来る日は、一緒にどろんこ遊びやサッカーをして遊んだり、お弁当を食べたりして過ごします。自由な時間だけでなく、各クラスでは外国人講師と触れ合える時間を意図的に作り、子ども達がよく知っている絵本の英語版を読んだり、ゲームをしたり、英語の歌を歌ったりします。本物の英語に触れたり、異なる文化を持つ人を身近に感じられたりする時間となっています。

年少組(三歳児)の子ども達もデイトン先生が来る日を楽しみにしています。朝、デイトン先生が来ると、「Good morning!」と言って駆け寄っていき、一九〇cm程ある大きなデイトン先生に抱きついたり、握手をしたりします。一

緒に遊びながら英語で話しかけてもらうと、子ども達は耳を傾けて、身振り手振りで答え、どうにかコミュニケーションを取ろうとします。また、顔をじっと見て「まつげ長いね!」「うわあ、手、すっごく大きい!」「見て、靴も大きいよ!」など、外国人であるデイトン先生にも違和感なく接しています。さらに各部屋では、色探しゲームをしたり、アルファベットの歌やあいさつの歌を歌ったりします。中でも子ども達のお気に入りには「Good-bye song」です。英語の歌詞を聞きながら、また身振り手振りをしながら、楽しそうに先生の真似をしています。

実際に外国人と触れ合ったり、一緒に楽しい時間をたくさん持つたりすることで、異文化を身体で感じ取っているようです。

年少児は幼いがゆえに、外国人でも構えず、また、わだかまりなく積極的に関わっていくことができます。その時期にこのように外国人の先生と一緒に生活する時間

を持つことで、将来も外国人、そして世界へ隔たりなく関わっていけるグローバル感覚、幅広い柔軟な心の土台作りをしています。子ども達が生活しながら生きた英語に自然と触れ、異文化や外国語に関心を持ち、自然な形で「国際性」を養ってほしいと考えています。



「友達いっぱいできて嬉しいな！」

年中組担任 館内 祐樹

今年度の年中児（四歳児）は、60人全員が年少組（三歳児）からの進級児であり、一年間の幼稚園生活を体験してきました。年度当初、我々年中すみれ組スタッフはその特性を十分に生かした保育を進めていくことを考えました。その中では、園外保育の機会をたくさん作り、自分達で実際に体験して学びを深めていったり、色々な友達や先生とかかわり合う楽しさをたくさん味わい、60人のつながりを深めていけるようねらいをもつて1・2学期の保育を進めてきました。

そして迎えた3学期。これまでの子ども達の姿を振り返る中では、最初は遊びも生活も自分中心だった子ども達も、だんだんと色々な友達の名前を覚えたり、他の友達への関心も少しずつ芽生えてきたことが伺えます。そしてさらに新たな友達とも深くかわる中で、友達の良いところや、逆に嫌だなと思うところ、色々な考えがあることに気づいていってほしいという願いから、「なかよしデー」というさらに踏み込んだ交流活動ができるのではないかと考えました。

なかよしデーとは、すみれ組60人がお互いに深く知り合うための活動です。その手立てとして、みんなでくじ引きを行い60人を新たに2クラスに分けて、週に2日、「なかよしクラス」で登園から降園までを一緒に過ごして行きます。「どっちのお部屋になるかな?」「お友達は誰が一緒だろうか?」と、わくわくドキドキしながら行うくじ引きは毎回大盛り上がり。友達と引いたくじを見せ合ったり、同じクラスになった子に声をかけたりする姿がこちらで見られます。まずはくじ引きのドキドキ感を楽しみながらくじで分かれたなかよしクラスでお弁当を食べる、帰りの会を行う、という部分的な交流からスタートし、徐々に慣れてきたところで本格的に1日を通してのものへと移行していくことにしました。そしてこのくじ引きは、子ども達だけでなく担任と副担任も引きます。

さて、なかよしデーの様子はどうと・・・
登園時、それぞれ自分のクラスに向かう子ども達の表情は、張り切っている顔、緊張している顔、

様々です。環境の変化も大きいこともあり、中には少し不安を感じている子もいますが、保育者がその不安な気持ちはしっかりと受け止め、そしてその壁を自分自身の力で乗り越えていけるよう寄り添いながら導いて行きます。なかよしクラスでは、どんな友達がいるのか自己紹介タイムを作ったり、全員が集まって丸ドッジなどの集団遊びをしたり、みんなで楽しむ時間を積極的に作っています。その中で子ども達は、なかよしデーという活動にも慣れてきたようです。

なかよしデーの中で見られた姿としては、くじ引きで一緒になった子が、「ももさんの時に一緒にのクラスだったよね」と、顔を見合わせてにっこりしたり、「今日は○○ちゃんと友達になったよ」とか「なかよしデーをやると新しい友達がいっぱいできるから毎日なかよしデーがいいな」というような報告をしてくれる子もいます。このような姿から、朝から一緒に過ごすことで、友達同士の結びつきが広がっていることが伺えます。また、担任以外の先生とのかわか

りもこれまで以上にぐっと深まり、子ども達との距離がさらに近くなったように感じ、大変嬉しく思います。我々保育者としても子ども達を色々な角度で見ることができるようになりました。

このような色々な友達とかかわる楽しさを味わう経験を通し、友達関係もどんどん広がりと深まりを見せている子ども達。年中組でのこれらの経験を生かして、年長組になった時には、より一層の主体性を持ってたくさん友達とかかわる中で、友達同士が力をあわせたら何ができるか、ということ。そして友達同士互いに育ちあっていけるような生活を送ってほしいと願っています。



学 校 法 人 か ら

【理事会報告】

センターエリア3階中会議室

- 第8回定例理事会 11月8日
- 第9回定例理事会 12月4日
- 第2回臨時理事会 12月18日
- 第10回定例理事会 1月16日
- 第3回臨時理事会 1月26日

【主な議題】

- ・サーバ室メールセキュリティソフト及びメールサーバ機の更新について
- ・中高隣地の利用方法について
- ・幼稚園パンフレットの作成について
- ・2009年度学園案内の制作について
- ・重要事業予算について
- ・就業規則等の改定について
- ・国際交流業務にかかる外国人コデーネータの採用について
- ・清掃・労務等業務委託化について
- ・労使交渉回答について

【評議員会報告】

センターエリア3階大会議室

第4回評議員会 10月11日

【議題】

- ・湘南学園創立75周年行事について
- ・寄附行為の一部変更について
- ・その他

【教育費援助の制度について】

法人事務局

○対象者

本学園の幼稚園及び各学校に1年以上在籍する児童生徒の保護者が利用できます。同一家族で複数の申請を行うことも可能です。授業料を滞納していないことが条件ですが場合によっては貸与されることがあります。

○募集期間

年間を通じて随時募集しております。

○他の制度との併用

他の公的制度との併用は可能です。

○援助年数及び援助額

- ・各学校在学中に3年が限度です。
- ・校納金のうち「授業料」が毎月援助されます。

「授業料」以外は対象外となっておりますので、毎月末日を期限として銀行振込により入金していただきます（毎月の振込額は一覧表にてお渡しいたします）。

○返済

協議によって決定します（援助金は無利息です）。

○その他

詳しいことにつきましては、直接ご説明いたします。先ずは電話連絡の上、事務室窓口にお越しください。

（電話番号：
0466-23-6611）

始業式・入学式の日程

【4月】

- 7日 中高 始業式
- 8日 小 始業式
- 10日 幼 始業の日
- 10日 小 入学式
- 14日 幼 入園式

